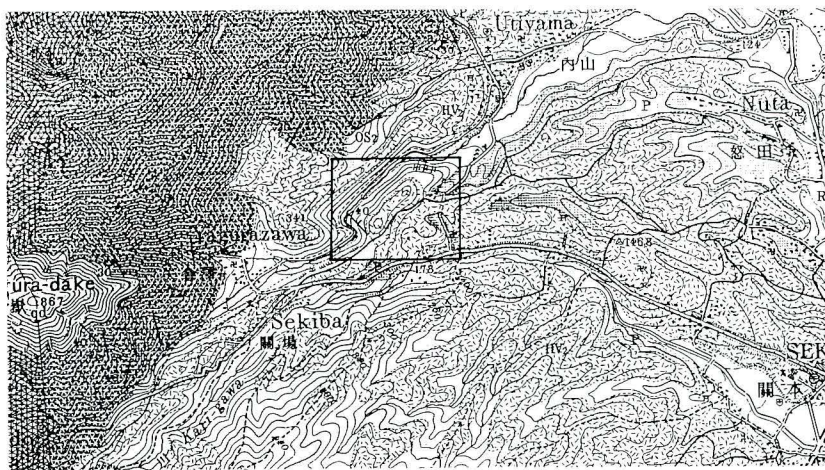


内田智雄・今永 勇

Tomoo UCHIDA and Isamu IMANAGA

無礼山

無礼山の採石場に露出している箱根古期外輪山溶岩は、紫蘇輝石を主とした普通輝石紫蘇輝石安山岩であ



る。溶岩は露頭の右下部に現れ、見かけ上南に傾斜し（図2）、部分的に板状節理が見られ、また上下方向の割れ目が目だつ。溶岩は、赤紫色の火砕岩に挟まれている。この火砕岩は、cobble size の溶岩片と、同質の granule size の matrix からなる。溶岩の割れ目に、火砕岩が挟まっている箇所があり、また板状節理にも破碎された溶岩片が挟まれている所がある。

無礼山の採石場の礫層は、2 mを越える巨礫から小礫まであり、径20—30 cmのものが多い。巨礫は採石場の溶岩と同質の安山岩の亜円礫と矢倉岳石英閃緑岩の亜円礫が目だつ。cobble大のものは、採石場の火砕岩

が多く含まれている。その他、安山岩と矢倉岳石英閃緑岩の角礫それに足柄層群の円礫岩からもたらされた凝灰岩礫と足柄層群の泥岩の円礫を含む。基質は安山岩の細礫から粗砂それに火砕岩の粗砂である。礫層は、下位に亜角礫が多く上位に亜円礫が多くなるとともに礫種においても安山岩礫のみとなる。見かけの imbricate 構造は南西から北東を示す。また挟在する砂層から見て、ほとんど水平に近い。礫層の厚さは、採石場で50m以上あり、礫層の中段に白色パミスが密集している水付きローム層の塊が取り込まれている（図2—1、2—2）。礫層は箱根古期外輪山溶岩を挾

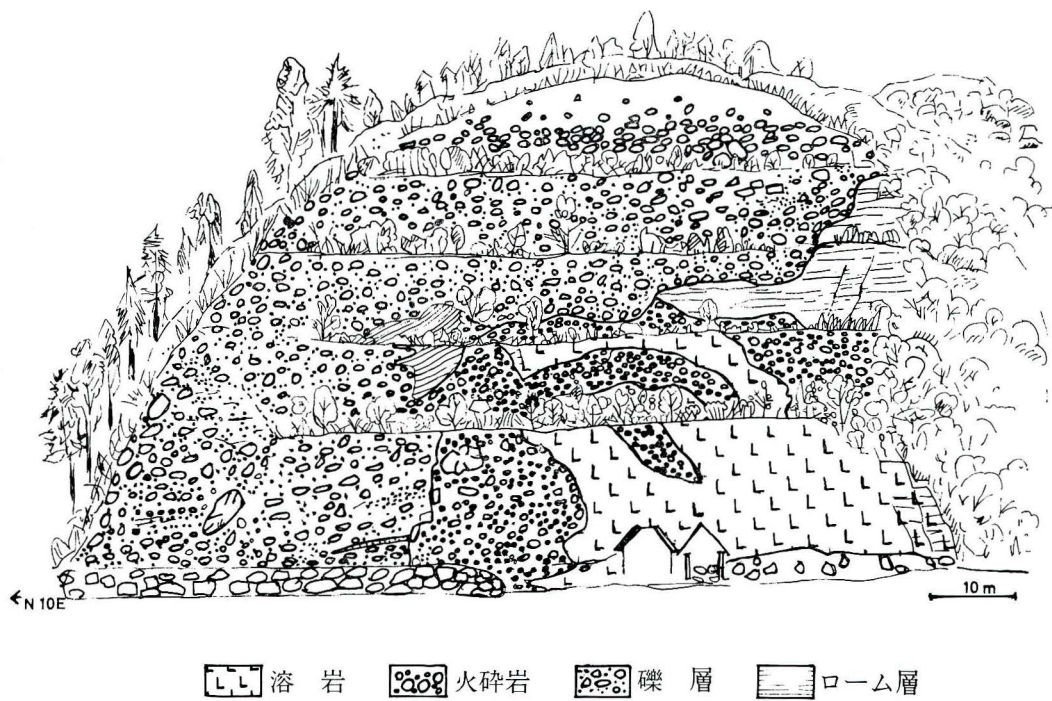


図2—1 無礼山採石場の露頭全景

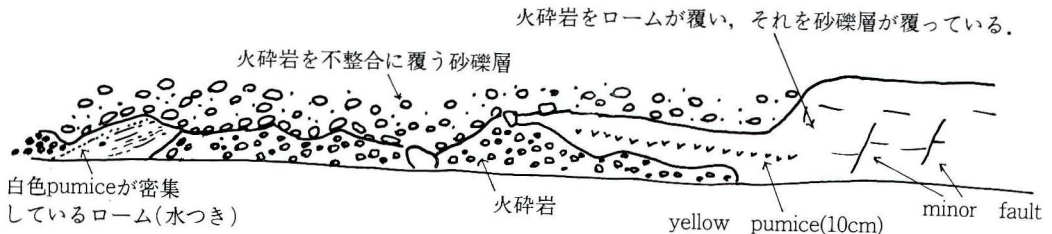


図2—2 露頭の中段部



図3 縦方向の圧縮を示す溶岩の割れ目

む火砕岩を削って堆積し、また火砕岩を不整合に覆うローム層を削っている。ローム層は、一部水つきではほぼ水平、北落ちの小規模正断層により切られている。(図2-2)。

考 察

無礼山の位置は、箱根火山北東部の内川と狩川のつくる谷地形の中にあり、谷地形の中で地形的に高く、関本丘陵を作る軽石流扇状地の扇頂部付近に位置する。無礼山の箱根古期外輪山溶岩は、著しく割れ目が発達し、南に傾いている。この割れ目の中には上下方向の圧縮を示すものが認められる(図3)。無礼山は、その地形的な高まりと溶岩流に発達する著しい割れ目から、内川断層あるいは平山断層に関連した断層運動による地形の可能性が考えられる。

箱根火山の北東部の狩川と内川の谷は箱根火山南東部に形成された早川の谷に次ぐ大きな谷であり、この谷の形成過程において泥流や岩屑流が生じた可能性が

考えられ、これらの可能性について今後さらに広い範囲の調査を行う予定である。

文 献

- 天野一男・横山健治・立川孝志, 1984. 箱根古期外輪山を切る平山断層. 地質学雑誌, 90: 849-852.
- 今永 勇, 1987. 山北町日向付近の地質と地質構造. 神奈川自然誌資料, (8): 23-26.
- KUNO, H., 1938, Geologic Map of Hakone Volcano and the Adjacent Areas.
- 西島晶子, 1985. 箱根火山北東麓関本丘陵における地形発達史, 関東の四紀, (11): 43-51.
- 鈴木隆介, 1963. 箱根火山北東部における軽石流の堆積とそれに伴った地形変化について. 地理評, 36: 24-41.
- (内田智雄: 神奈川県立小田原城内高校, 今永 勇: 神奈川県立博物館)